

国家課題対応型研究開発推進事業 原子力システム研究開発 ー基盤研究開発分野ー  
革新技術創出型 事後評価総合所見

研究開発課題名(研究機関名):

「FBR移行サイクルの柔軟性向上技術の実用化に関する研究開発」

研究代表者(研究機関名):深澤哲生(日立GEニュークリア・エナジー株式会社)

再委託先研究責任者(研究機関名):荒井康夫(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

再委託先研究責任者(研究機関名):佐藤正知(国立大学法人北海道大学)

再委託先研究責任者(研究機関名):島津洋一郎(国立大学法人福井大学)

研究期間及び研究経費:平成21年度～平成23年度(3年計画)100 百万円

項目	要 約
1. 研究開発の概要	軽水炉から FBR への移行期における燃料サイクルシステムとして、優れた特性を有している柔軟な燃料サイクル構想(FFCI)の実用化を目指した技術開発を行う。FFCI の枢要技術であるウラン分別技術とリサイクル原料一時貯蔵技術の実用性を確認する。
2. 総合評価	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 5px;">A</div> <p>・ウラン分別技術とリサイクル原料貯蔵技術の実用性を、リサイクル原料の調整模擬試験と物性評価、実測データに基づきリサイクル原料貯蔵設備の除熱解析等により検証し、フレキシビリティを有し、なおかつ経済性の向上も期待される FFCI の燃料サイクルシステムとしての成立性を確認するなど優れた成果を上げている。</p> <p>S)極めて優れた成果を挙げ、今後の展開が大いに期待できる。  <b>A)優れた成果を挙げ、今後の展開が期待できる。</b>            B)成果の一部は得られてないが、他は相応の成果を挙げている。            C)成果の多くが得られておらず、一部についてのみ相応の成果を挙げている。            D)成果がほとんど挙げられていない。</p>